

令和7年度
名古屋市立大学大学院看護学研究科
博士前期課程（看護学専攻）

学生募集要項

（2回目）

名古屋市立大学大学院看護学研究科

名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

【看護学研究科博士前期課程】

《求める学生像》

- ・豊かな人間性、柔軟な姿勢、ニーズを汲み取る感性、高い倫理観を持ちあわせている人
- ・高度な看護実践能力をもって人々の健康生活支援に関わることにやりがいと使命を感じている人
- ・大学院で修得したことを基盤に、実践の場で問題を適切に解決していくリーダー的存在となる意志のある人
- ・身に付けた幅広い知識や分析力をもとに、多職種と連携し、チーム医療を推進する意志のある人
- ・看護学の教育者・研究者・高度実践家をめざすために、十分な教育研究力を身につけようとする意欲にあふれる人
- ・研究を遂行し、実践を探究するための自律性および向学の志が高い人

《修得しておくべき知識の内容・水準》

- ・看護学をより深く学ぶために必要な学士課程卒業レベルの専門知識
- ・共感的、援助的コミュニケーション能力
- ・研究に関する基礎的知識
- ・論文作成に必要な基礎的語学力並びに英語読解力

令和7年度大学院看護学研究科 入学者選抜試験スケジュール

対象者	事項	日程
資格審査を必要とする者のみ	資格審査申請期間	令和6年11月20日(水)～11月26日(火)
	資格審査結果発表	令和6年12月9日(月)
出願者全員	出願期間	令和6年12月18日(水)～12月25日(水)
	選抜試験期日	令和7年1月25日(土)
	合格発表	令和7年2月5日(水)

1 募集人員

看護学専攻 若干名

募集する領域・コース・教育研究分野（教育研究分野の詳細については8ページ以降を参照ください。）

領 域	コ ー ス	教育研究分野（コース）
看護学領域	修士論文コース	性生殖看護学 注1
		成育保健看護学 注1
		クリティカルケア看護学 注1
		周手術期看護学 注1
		慢性看護学 注1
		高齢者看護学
		先端医療看護学
		看護マネジメント学 注1
		感染予防看護学
		精神保健看護学 注1
		在宅看護学
		地域保健看護学 注1
		国際保健看護学
看護学領域	専門看護師教育コース	クリティカルケア看護学 注1
		精神保健看護学
看護学領域	上級実践コース	周麻酔期看護師教育コース 注1
	修士論文コース	助産学 注1
	上級実践コース	アドバンスコース 注1
助産師国家試験受験資格取得コース 注1		
助産学領域	上級実践コース	助産学 注1
		アドバンスコース 注1
		助産師国家試験受験資格取得コース 注1

注1) 2回目入試の募集はありません。

注2) 看護学領域の専門看護師教育コースもしくは上級実践コース（周麻酔期看護師教育コース）を志望する者は、下記**出願資格**(1)～(10)のいずれかに該当する出願資格を有し、かつ看護師免許を有すること。また、**事前に必ず担当教員（8ページ参照）に相談**してください。

2 出願資格

出願資格は、次のいずれかに該当すること。

- (1) 大学を卒業した者又は令和7年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学士の学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者、又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者、又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして、当該外国の学校教育制度において、位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者、又は令和7年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの、又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該課程を修了すること、及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者、又は令和7年3月までに授与見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、又は令和

7年3月までに修了見込みの者

- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本学看護学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた者
- (10) 本学看護学研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和7年3月31日までに22歳に達するもの

3 資格審査（出願資格(9)(10)で出願しようとする者は資格審査を受けること。）

(1) 資格審査申請期間

令和6年11月20日（水）～11月26日（火） **〔必着〕**

(2) 申請書類（書類の作成は、5 出願書類等に準じること。）

- ① 資格審査願
 - ② 履歴書
 - ③ 業績書
 - ④ 最終学歴^{*}の学校長が作成した卒業証明書及び成績証明書
- ①～③は所定用紙を使用

※看護師、保健師又は助産師の免許を有する者にあつては、その免許を取得するために卒業したすべての養成所等の卒業証明書及び成績証明書もあわせて提出してください。

※卒業証明書、成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。

(3) 資格審査に必要な提出書類の郵送方法及び郵送先

封筒の表に「看護学研究科博士前期課程資格審査書類在中」と朱書きし、上記(2)の申請書類を次ページ記載の提出先に、必ず**書留速達**で郵送してください。申請は郵送に限ります。窓口受付は行いません。

国外から申請する場合、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による申請は受け付けませんので、注意してください。）

(4) 審査結果

審査結果は、令和6年12月9日（月）以降に通知します。

4 出願手続

(1) 出願期日

令和6年12月18日（水）～12月25日（水） **〔必着〕**

(2) 出願方法及び出願先

- ・ 本学所定の封筒に出願書類を入れ、**書留速達**で次ページ記載の提出先まで郵送してください。**出願は郵送に限ります。窓口受付は行いません。**
- ・ **専門看護師教育コース（クリティカルケア看護学分野及び精神保健看護学分野）もしくは上級実践コース（周麻酔期看護師教育コース）を希望する場合は、担当教員に事前に相談してください。**（連絡先は8ページ以降の担当教員一覧を参照ください。）
- ・ 期限までに到着しなかった場合は受理しません。**（期間内消印有効ではないので注意してください。）**
- ・ 国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による出願は受け付けませんので注意してください。）
- ・ 出願書類を受理したときは、受験票、受験案内を送付します。
* 令和7年1月17日（金）を過ぎても届かない場合は、学生課入試係看護学研究科入試担当にお尋ねください。
- ・ 外国の高等教育機関で発行された卒業証明書等で、再発行ができないものについては、コピーの提出を認めます。この場合、原本の送付は必要ありませんが、入学手続きの際に原本を確認するので、必ず原本を持参してください。

<資格審査申請書類・出願書類 提出先>

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

名古屋市立大学教育研究部学生課入試係 看護学研究科入試担当

5 出願書類等

書	類 等	摘 要
①	入 学 願 書 写 真 票 受 験 票	〔本学所定用紙使用〕 写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦 4 cm×横 3 cm、出願前 3 か月以内に撮影したものを貼り付けしてください。 受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。
②	履 歴 書	〔本学所定用紙使用〕 ・学歴は、高校卒業から記入してください。 ・職歴があれば記入してください。 ・看護師、保健師又は助産師免許を所持する場合は、その免許登録番号を記入してください。 ・出願資格(3)～(7)又は(9)により出願する者は、初等教育（小学校相当）から高等教育（大学相当）まで、修了した学校教育をすべて記入してください。
③	卒 業 証 明 書 (卒業見込証明書)	在籍又は最終学歴の学校等の長が作成したもの。 出願資格(2)又は(8)により出願する者は、資格を証明する書類を提出してください。出願資格(3)～(7)により出願する者は、修了した高等教育機関（大学相当）の卒業証明書を提出してください。コピーは認めません。ただし、外国の高等教育機関で発行された証明書で、再発行ができないものについてはコピーの提出を認めます。この場合は、原本を送らないでください。合格者には入学手続きの際に原本を持参していただきます。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
④	成 績 証 明 書	在籍又は最終学歴の学校等の長が作成したもの。 出願資格(3)～(7)又は(9)により出願する者は、修了した高等教育機関（大学相当）の成績証明書を提出してください。コピーは認めません。ただし、外国の高等教育機関で発行された証明書で、再発行ができないものについてはコピーの提出を認めます。この場合は、原本を送らないでください。合格者には入学手続きの際に原本を持参していただきます。日本語訳も任意の様式で作成し、必ず添付してください。証明書に直接書き込まないでください。 出願資格(2)又は(8)により出願する者は、提出の必要はありません。
⑤	学 修 計 画 書	〔本学所定用紙使用〕
⑥	TOEIC® L&R 公開テストの成績	試験主催者から本人に送付された Official Score Certificate（公式認定証）を提出してください。コピーは認めません。ただし、平成 31 年 4 月以降に受験した認定証に限ります。 令和 5 年 4 月以降に実施の TOEIC Listening & Reading 公開テスト成績を提出される場合は、従来の公式認定証の代わりに、デジタル公式認定証の写しを提出することも可能です。デジタル公式認定証の写しを提出する場合は、デジタル公式認定証の写しの裏面にデジタル公式認定証 URL も記載ください。 ※出願までに公式認定証の提出が間に合わない場合には、試験当日の提出を認めます。試験当日に公式認定証を提出する場合には、出願時に「TOEIC® Listening& Reading Test スコア未提出理由書」〔本学所定用紙〕を提出してください。
⑦	住 民 票 (外国籍の者のみ)	・外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。 ・在留資格が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。 ※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得してください。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。

⑧	入学検定料等 (30,344円)	振込依頼書(本学所定のもの)を使用し、必要事項を記入のうえ、30,344円(入学検定料30,000円+受験票等送付のための速達郵便料金344円)を添えて銀行などで振り込んでください。 ゆうちょ銀行(旧郵便局)では取り扱いません。また、ATM等は使わず、必ず窓口で振り込んでください。 振込手数料は、志願者本人の負担となります。 銀行などから受け取った「検定料納付証明書(B票)」を、他の出願書類と一緒に提出してください。「振込金(兼手数料)受領書(A票)」は、入学志願者が保管するものですから、注意してください。
⑨	あて名用シール	[本学所定用紙使用] 返信先を明記してください。受験票等の送付及び可否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。
⑩	出願書類提出用 封筒表紙	[本学所定用紙使用] 必要事項を記入し、ご自身で用意した市販の角型2号封筒に貼り付け、出願書類を封入の上、学生課入試係宛て郵送してください。

注1) 資格審査を申請した者は、出願時に②、③及び④の再提出は不要です。

注2) 志望する教育研究分野・コース(2ページ目参照)から1つを選択して、出願してください。

注3) 卒業証明書、成績証明書に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。

注4) 在職のまま就学を希望する者は、受験承認書や就学承認書は必要としませんが、勤務先とのトラブルが生じないように十分配慮してください。

注5) 原則、既納の入学検定料は返還しません。ただし、以下の場合には、納入された入学検定料を返還します。
詳細は、本学ウェブサイトで確認してください。

- ・二重に振込んだ場合

- ・入学検定料等を振込んだが、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合を含む)

注6) 提出された出願書類は返却しません。

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず学生課入試係看護学研究科入試担当(電話:052-853-8020)まで申し出てください。

7 入学者選抜期日及び方法

(1) 期日、時間、科目等

試験期日	試験時間	試験科目
令和7年1月25日(土)	9:00~10:00	専門科目 志望した教育研究分野／コースに関連するテーマ。
	11:00~	面接 提出した学修計画書をもとに行います。

(2) 試験会場及び集合時間

名古屋市立大学看護学部棟（名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地）

※受験票とともに、集合時間等を記載した受験案内をお送りします。

8 合格発表

令和7年2月5日(水) 10:00

看護学部棟1階入口付近に掲示するとともに、本人あてに可否を通知します。

9 入学手続

(1) 手続期日(予定)

令和7年2月中旬頃(合格通知とともにお知らせします。)

*上記日時に手続できない場合、書留速達により**手続期日の前日必着**で書類を郵送してください。

(2) 手続方法

合格発表後、速やかに詳細を本人あてにお知らせします。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料 名古屋市住民等 232,000円

その他の者 332,000円

イ 学生教育研究災害傷害保険料 1,750円

注1) 上記は、令和6年度入学者の金額であり、令和7年度については改めてお知らせします。

注2) 名古屋市住民等とは、①入学者又は②入学者の配偶者若しくは1親等の親族が入学の日(4月1日)において、同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注3) 入学料等は、入学手続時まで金融機関で納入してください。既納の納付金は返還しません。

10 授業料

年額 535,800円(前期・後期分 各267,900円)

注1) 授業料は、入学後、年2回(前期・後期)に分けて納めてください(口座引落)。

注2) 授業料は、令和6年度入学者の金額であり、令和7年度については改めてお知らせします。

また、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。

注3) 実習費などの諸経費が別途必要になります。

11 授業料の減免制度

経済的理由により授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀と認められる場合には審査の上、授業料の全額または半額、もしくは4分の1の額が免除されます。詳しくは、学生課学生支援係(電話:052-872-5042)へお問い合わせください。

1 2 長期履修制度

- ・職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することができる制度です。
- ・博士前期課程の標準修業年限は2年ですが、長期履修学生の在学期間は3年となります。
- ・授業料は、標準修業年限期間の授業料総額を決定された履修期間で按分した額とします（年額）。
- ・助産学領域の上級実践コース(助産師国家試験受験資格取得コース)には、長期履修制度は適用されません。
- ・この制度に関するお問い合わせは、看護学部事務室までお願いします（電話：052-853-8037）。

1 3 奨学金制度

日本学生支援機構において、大学院学生に対する貸与制度があります。
希望者については、本学において学業成績及び研究能力等を審査のうえ推薦手続をとります。

1 4 個人情報の取り扱い

個人情報については、「名古屋市個人情報保護条例」に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 個人情報の利用

- ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うため使用します。
- イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を、今後の入学者選抜及び大学教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）
- ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、就学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

1 5 注意事項

- ・出願書類等が不備の場合は受理しません。
- ・出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- ・出願書類等は返還しません。
- ・受信場所を変更した場合は、直ちに学生課入試係看護学研究科入試担当に連絡してください。
- ・二重学籍は原則禁止とします。
- ・悪天候や災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイト及び等により周知しますので、受験前は特に注意してください。また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、入学願書や資格審査願には、必ず連絡のとれる連絡先を書いてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

大学院看護学研究科博士前期課程 教育研究分野・担当教員一覧

※各教員連絡先メールアドレスの後には@med.nagoya-cu.ac.jpをつけてください。

領域	教育研究分野 担当教員名／連絡先	各研究分野【コース】の紹介
看護学領域	性生殖看護学 教授 脇本 寛子／ e-mail: wakimoto 教授 尾崎 康彦／ e-mail: yozaki 准教授 保田 ひとみ／ e-mail: boda.hi	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません リプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から、思春期・成熟期・更年期・老年期という各ライフステージにある女性とその家族への健康教育支援、看護援助方法の探求に取り組みます。マタニティ・ステージにある母性の発達ならびに母子とその家族の well-being の実現に向け、次代につなぐ看護援助方法を探求します。助産師の有資格者の場合は、助産学領域の助産学共通科目の一部の特論科目を受講することができます。また、性生殖看護学・助産学分野として、助産学分野の学生と研究に関わるディスカッションの機会を予定しています。
	成育保健看護学 教授 山邊 素子／ e-mail: sakura33 准教授 大橋 麗子／ e-mail: reiko 准教授 遠藤 晋作／ e-mail: s-endo	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません 小児看護学の対象は出生前から慢性疾患のキャリアオーバー、AYA 世代と範囲は拡大しています。患児の人権と看護を探求するために健康な子どもの日常生活から観つめ直す必要があります。指導教員は看護師・助産師として小児科で脳神経から小児がん、小児 ICU と多様な経験をしました。1年目の前期は文献検索、デザイン、統計、文章作成、ユニバーサルデザインとしてのスライド・図表作成を学修します。後期は英文抄読会をします(電子辞書さえあれば大丈夫!)。計画書・抄録作成を踏まえて2年目に研究を開始します。Let's enjoy pediatric Nursing!
	クリティカルケア看護学 教授 中村 美鈴／ e-mail: nmisuzu	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません 急性臓器障害や侵襲的治療によって生命の危機状態に陥った人々の特徴や体験、患者や家族の看護実践上の問題や倫理的課題を検討します。そして、患者の生命維持、生理的機能回復、全人的苦痛緩和、日常性回復、セルフケア能力回復、Quality of Life 向上、End-of-life-Care を支える高度かつ専門的な看護実践、家族への支援方法を探究します。また、修士論文の作成においては、自らの研究疑問をもとに研究課題を絞り込み、研究計画書作成からデータ収集と分析、結果・考察などの研究論文作成までのプロセスを修得します。学生には主体的な研究活動とともに、大学院ゼミを活用した積極的な議論を期待しています。 【専門看護師教育コース】 ※2回目入試の募集はありません 急性・重症患者看護専門看護師には緊急度や重症度の高い患者に対するケアとケアの融合による高度かつ専門的な知識と技術を用いた直接的ケアや苦痛緩和、家族支援などの実践、倫理的課題の調整、多職種間との連携・協働、相談、教育などを通して、最善の医療が提供されるよう支援することが求められます。本コースでは最新の治療・看護に関するエビデンスを学修し、学生の主体的な講義参加、事例に対する多面的な議論、職種間連携を考慮した実習によって高度実践看護師に必要な能力を修得します。さらに、看護実践上の疑問をもとに課題研究に取り組み、研究のプロセスを修得します。学生には主体的な研究活動とともに、大学院ゼミを活用した積極的な議論を期待しています。
	周手術期看護学 教授 明石 恵子／ e-mail: akashi	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません 周手術期看護学分野では、治療の選択肢として患者に手術の可能性が提示された段階から、術前・術中・術後管理、そして社会復帰後の生活支援に至る一連の期間における看護を探求します。具体的には、手術療法が適応される疾病や病態、麻酔、全身の評価方法、臨床推論、医療安全など幅広い知識を修得し、患者の苦痛緩和、術後の機能低下の防止と回復力の強化、手術によって変化する身体の構造や機能への対応などの支援方法を議論します。

注) 教育研究分野に複数の担当教員がいる場合、担当教員は入学後に決まります。

領域	教育研究分野 担当教員名／連絡先	各研究分野【コース】の紹介
看護学領域	周手術期看護学 教授 明石 恵子／ e-mail: akashi	【周麻酔期看護師教育コース】 ※2回目入試の募集はありません 周麻酔期看護師（Perianesthesia Nurse：PAN）は、麻酔科医と協働して周麻酔期医療の安全と質の保障・向上を目指す存在です。手術中の麻酔と術前・術後管理のみならず、救急・集中治療、慢性疼痛治療（ペインクリニック）、無痛分娩、終末期医療などでの活躍が期待されています。本コースでは、看護学を基盤として、麻酔に必要な解剖学、生理学、薬理学、麻酔・手術侵襲に対する管理と合併症予防、臨床推論、医療安全などの専門的知識と技術、患者の全身管理方法を学修し、麻酔に関わる包括的ケアの実践能力を修得します。
	慢性看護学 教授 安東 由佳子／ e-mail: yukakoa	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません がん、生活習慣病（糖尿病、慢性腎臓病、心不全等）、難病などの慢性疾患患者や家族へのケアに関する研究に取り組んでいます。近年は、慢性疾患をもった高齢者を対象とした研究等、慢性疾患看護に関するテーマを幅広く扱っています。また、慢性疾患患者をケアする看護師を対象とした研究、看護師や看護学生のメンタルヘルスに関する研究も実施しています。修士論文作成のプロセスをとおして、Evidenceに基づいて物事を論理的に捉える能力を高めながら、基本的な研究能力を育成していきます。
	高齢者看護学 教授 平田 弘美／ e-mail: hirata 准教授 小山 晶子／ e-mail: a-koyama	【修士論文コース】 高齢者看護学分野では、高齢者医療・高齢者ケアが抱える課題を明確化し、改善するための実践的な研究・教育を行います。指導する教員は、認知症高齢者のBPSD（Behavioral and psychological symptoms of dementia）に関する研究や、高齢者の服薬アドヒアランスに関する研究に取り組んでいます。大学院生自身の関心や疑問を出発点として、文献検討を行い、リサーチクエスチョンを見出します。研究計画の立案、倫理審査の申請、データ収集・分析、論文執筆という一連の過程を通して基礎的な研究能力の習得を目指します。
	先端医療看護学 教授 窪田 泰江／ e-mail: yasuekbt 教授 加古 英介／ e-mail: ekako 教授 鏡 裕行／ e-mail: kagami 教授 久保田 正和／ e-mail: mkubota 教授 鄭 且均／ e-mail: jung	【修士論文コース】 窪田 泰江：泌尿器科専門医；排尿生理を理解し、排尿機能・排泄支援に関する課題のほか、男性不妊症など泌尿器科学分野全般における課題に取り組めます。 加古 英介：麻酔科・集中治療科専門医；急性期管理、重症管理、いたみ治療、無痛分娩など、臨床経験に基づいて研究指導に取り組めます。 鏡 裕行：看護情報センター；ヘルスケアや治療方法に関わる諸問題について、数理的にモデリングする手法により解析します。また、導出した数理モデルの検証のため、測定や観察により取得したデータの統計的解析も行います。 久保田 正和：看護地域連携センター；適切な認知症ケアの検証、終末期の意思決定支援、介護負担の軽減、介護予防、地域連携などの課題に取り組めます。 鄭 且均：看護国際センター；アルツハイマー病の病態解明を行い、分子メカニズムに介入する形で予防・治療法開発のための基礎研究を行ないます。
	看護マネジメント学 教授 樺野 香苗／ e-mail: momino 准教授 宮内 義明／ e-mail: y-miya 准教授 秋山 直美／ e-mail: nakiyama	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません 保健・医療・看護におけるケアの質向上に貢献できる研究を目指しています。特に、ケア提供者である看護師のストレスマネジメントや人的資源管理、管理者の人材育成、医療安全管理、医療・看護情報の利活用等について探求していきます。さらに、ケアマネジメントの視点から、緩和ケアを必要としている対象への症状マネジメント、意思決定支援やEnd of Life（EOL）ケア提供システムの構築、看護介入方法に関して研究を行っています。関連論文を批判的に読み、研究計画を立案・実施し、研究論文を執筆する一連のプロセスを通じて、研究マインドを養うとともに、研究を行う基礎的能力の修得を目指します。

注) 教育研究分野に複数の担当教員がいる場合、担当教員は入学後に決まります。

領域	教育研究分野 担当教員名／連絡先	各研究分野【コース】の紹介
看護学領域	感染予防看護学 教授 矢野 久子／ e-mail: yanohisa 准教授 安岡 砂織／ e-mail: syasuoka	【修士論文コース】 医療関連感染などの感染予防ケアに関する研究を行っています。感染予防は、小児から高齢者まで、あるいは病院での急性期から慢性期、施設や在宅での長期療養まで幅広く求められる領域です。個人及び集団に対して多角的な視点で探求します。感染管理認定看護師等の臨床看護師や教員の方は、在職のままで学修継続ができる長期履修制度を活用することが多いです。長期履修生は、1年次に先行研究の文献検討と研究テーマの明確化、研究手法の習得、2年次に倫理審査の受審とデータ収集、3年次にデータ収集・解析と修士論文の作成を行います。
	精神保健看護学 教授 香月 富士日／ e-mail: katsuki 教授 谷向 仁／ e-mail: tanimuki	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません 精神疾患をもつ方やそのご家族に対して、より良い専門的ケアの提供やケア提供システムを構築できることを目的に、各関連要因の関係性の分析を研究的視点を用いながら探求します。また、看護職を対象としたメンタルヘルスや感情の問題を取り上げ、看護職者が健康的に働き続けるためのサポート方法を探求します。 【専門看護師教育コース】 精神看護専門看護師は、精神領域の対象者・家族・集団に対して、卓越した看護援助を行う力を必要とします。このコースでは、精神症状と健康問題の適切な査定を行った上で、看護を展開できるようにします。また、精神領域の特殊な介入として、個人・集団・家族に対するセラピーを行う力を養います。実習においては、講義・演習で得た知識・技術をもとに、対象者の直接看護ケア、コンサルテーション、コーディネーションおよびセラピーの実際を指導を受けながら行い、精神専門看護師としての総合的な能力を習得します。
	在宅看護学 教授 秋山 明子／ e-mail: akiyama 准教授 井上 高博／ e-mail: t-inoue	【修士論文コース】 在宅看護学分野では、療養者・家族の在宅療養生活の質向上、ソーシャルキャピタルの醸成による介護予防支援、地域のコミュニティケアに関わる専門職の能力開発等、地域包括ケアの充実等をテーマとした研究を行っています。博士前期課程では、基本的な研究手法と論文作成のプロセスを学び、研究の基礎的能力を養います。
	地域保健看護学 教授 門間 晶子／ e-mail: akado 准教授 尾崎 伊都子／ e-mail: itsuko	【修士論文コース】 ※2回目入試の募集はありません この分野では、地域で様々な事情を抱えながら暮らす人々の生活や健康の状態、看護職者の活動、およびそれらにどのような要素が関連し影響しているのかについて探求します。大学院生の関心・疑問が研究で取り扱う問い(研究疑問)へと洗練され、明確な目的に基づく研究計画立案、調査実施、データ分析、論文作成という一連のプロセスを歩みます。研究を進めるうえでは、地域住民のとらえ方や視点を尊重した研究方法を検討します。当事者、家族、支援者など、様々な人々の相互作用や保健師等看護職者の支援のあり方の検討にもつながる研究ができると考えます。
	国際保健看護学 教授 樋口 倫代／ e-mail: michiyoh 教授 金子 典代／ e-mail: noriyok 准教授 江 啓発／ e-mail: keihatsu	【修士論文コース】 疫学を中心に、健康科学、社会科学など学際的なアプローチを用いて、国際的視点をもって取り組むべき健康課題の現状把握、対策について探求します。博士前期課程では、基本的研究手法の習得と先行研究検討を通して問題意識を「取り組み可能な問い」に作り上げて行くこと、そして、その問いにふさわしい研究計画を立て、データ収集、分析、論文を作成する一連のプロセスを学ぶことに重点をおきます。マイノリティや脆弱な集団の健康や、健康における公正を目指そうとする研究課題であれば、研究対象地は国内・外を問いません。

注) 教育研究分野に複数の担当教員がいる場合、担当教員は入学後に決まります。

領域	教育研究分野 担当教員名／連絡先	各研究分野【コース】の紹介	
助産学領域	助産学 教授 脇本 寛子／ e-mail: wakimoto 教授 尾崎 康彦／ e-mail: yozaki 准教授 保田 ひとみ／ e-mail: boda.hi	【修士論文コース】	※2 回目入試の募集はありません 助産学領域における女性とその家族、母子の健康維持や健康を阻害する問題に関わる臨床疑問や臨地的な課題の中から取り組む研究課題を明確にします。その研究課題に対し、適切な研究手法を用いて助産学的視点から探究し、修士論文を作成します。助産師免許（取得見込み含む）を有することが必要です。将来的に研究者・教育者を目指している方は、アドバンスコースより修士論文コースを勧めます。
		【アドバンスコース】	※2 回目入試の募集はありません 助産師免許（取得見込み含む）を有する者がスキルアップを行い、より高度な助産実践能力を修得できるようリカレント教育を行います。2年前期に実習2科目・実習計画に必要な演習を履修し、課題研究に取り組むところが修士論文コースとの主な違いです。助産学特論・演習・実習を通して研究課題を明確にし、研究の一連のプロセスを通して助産ケアに貢献しうる知見を課題研究成果物としてまとめます。臨地での活躍が期待されます。
		【上級実践コース】	【助産師国家試験受験資格取得コース】 ※2 回目入試の募集はありません 基礎助産学の習得、周産期ケアや女性の健康支援について学修を深めることにより、研究的素養と高度な助産実践能力を将来発揮できる助産師の育成を目指しています。看護師免許（看護師国家試験受験資格）を有することが必要です。修了要件には、助産師国家試験受験資格取得に必要な33単位の習得が含まれます。国家試験受験資格取得に必要な実習11単位を1年後期に、2年前期に上級実践コースの実習2科目を行います。講義・演習・実習を通して研究課題を明確にし、助産ケアに貢献しうる知見を課題研究成果物としてまとめます。

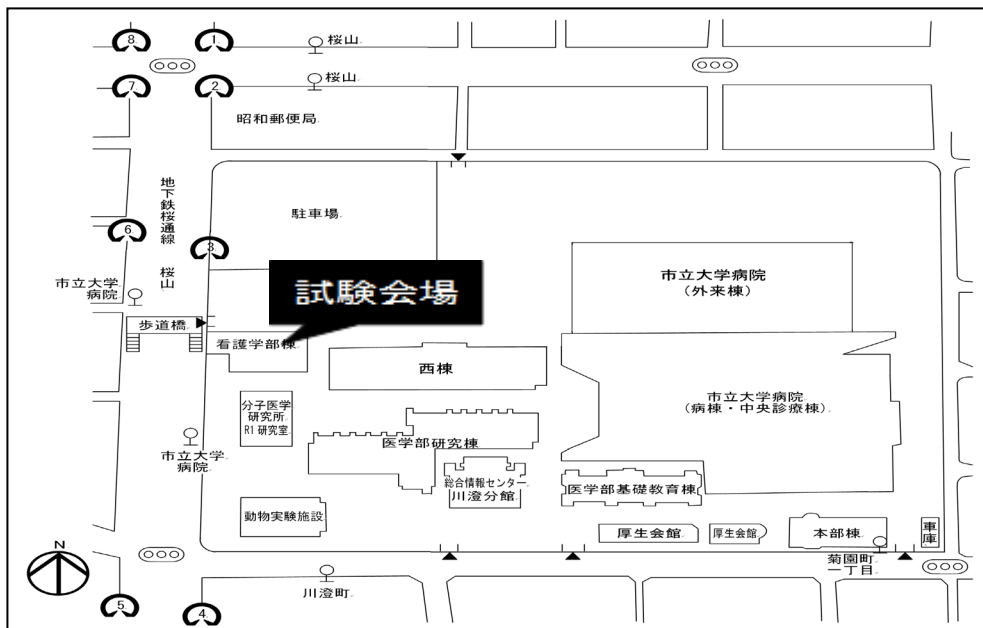
注) 教育研究分野に複数の担当教員がいる場合、担当教員は入学後に決まります。

【交通案内】

- 名古屋市営地下鉄 桜通線「桜山」駅下車3番出口すぐ
- 名古屋市営バス 「金山」総合駅市バスターミナルから金山12、金山14系統で「市立大学病院」下車
または金山11、金山16系統で「桜山(東)」下車



【桜山キャンパス内地図】



出願・入学等に関する照会先



〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
 名古屋市立大学教育研究部学生課入試係 看護学研究科入試担当
 電話 052-853-8020 FAX 052-841-7428
 E-mail shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp